

六条大麦「シュンライ」の奨励（認定）品種採用

1. 試験のねらい

本県における麦類生産は、昭和 60 年頃から大麦縮萎縮病抵抗性品種の普及や契約数量の増加等によりビール大麦を中心に実施されてきた。しかし、近年、契約数量の減少や水田転作面積の緩和等により減少傾向にある。一方、六条大麦については内麦の加工適性が優れていることから、実需者からの要望が高まっている。そこで、六条大麦の有望品種を選定し、今後、ビール大麦を中心として、小麦、六条大麦の三麦によるバランスのとれた麦作振興を図る。

2. 試験の経過

この品種は、昭和 53 年に長野県農事試験場麦類育種指定試験地において、寒冷地南部・温暖地北部向け、早生、短強稈、多収、良質を目標に交配された。本県では、昭和 60 年度から配付を受け奨励品種決定予備調査で検討し、昭和 63 年度から奨励品種決定本調査に繰り入れ、更に平成元年度からは現地調査にも供試して県下の地域適否を検討した。

3. 特性の概要

平成 7 年に認定品種として採用されたが、主な特性は次のとおりである（表-1）。

- (1) カシマムギと比較して、出穂期は 1～4 日、成熟期は 4～8 日遅い。あまぎ二条と比較して、出穂期は 1～2 日遅く、成熟期は同程度から 1 日遅い。
- (2) 並性で、叢性はやや匍匐で株の開閉は中である。
- (3) 稈長はカシマムギより長く、あまぎ二条に近い。穂長はカシマムギよりやや長い。
- (4) 耐倒伏性は、カシマムギ、あまぎ二条に優る。
- (5) 収量性は、カシマムギ、あまぎ二条に優り、多収である。
- (6) カシマムギと比較して、うどんこ病にやや弱く、大麦縮萎縮病に強いが、高度抵抗性は持たない。
- (7) 千粒重はカシマムギより大きい。外観品質は同程度からやや優れる。
- (8) 精麦時間が短く、精麦歩留、精麦白度が高く、加工適性は優れる。

4. 普及地帯および栽培上の留意点

- (1) 普及対象地域は、県中北部を中心とした麦類作付け地帯とし、作付け見込み面積は 2,000ha である。
- (2) 熟期が遅いので、赤かび病の防除に努める。
- (3) 大麦縮萎縮病には強いが、高度抵抗性ではないので、常発地帯での作付けは避ける。

5. 成果の要約

バランスのとれた麦作振興を図るため、多収で加工適性に優れるシュンライを奨励（認定）品種として採用した。

（担当者 育種部 伊澤由行・小林俊一・大久保堯司）

表-1 農業試験場における成績

(1) 畑条播 (昭60、62、平2の平均)

品 種 名	出穂 期 月日	成熟 期 月日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/㎡	倒伏 程度	うどんこ 病	子実 重 kg/a	同左 比 %	収 量 g	種 重 g	品 質
シュンライ	4.25	6.8	97	4.9	510	1.1	1.3	58.9	119	617	31.8	3.3
カシマムギ	4.22	6.4	85	4.4	533	3.9	0.8	51.7	105	617	27.0	3.8
あまぎ二条	4.24	6.7	95	6.7	849	3.9	2.3	49.4	100	643	32.9	4.2

- 注) 1. 10月23~25日播種。畦間60cm、播巾9cm、播種量0.4~0.5kg/a。
 2. 施肥量(kg/a) 窒素: 0.4~0.6、リン酸: 0.9~1.1、カリ: 0.75~1.0。
 3. 倒伏程度・発病の程度は0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚。
 品質は1:上上、2:上下、3:中上、4:中中、5:中下、6:下。

(2) 水田ドリル播 (平2)

品 種 名	出穂 期 月日	成熟 期 月日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/㎡	倒伏 程度	うどんこ 病	子実 重 kg/a	同左 比 %	収 量 g	種 重 g	品 質
シュンライ	4.19	5.31	94	4.5	480	0.0	0.0	60.9	116	650	32.9	2.2
カシマムギ	4.17	5.28	80	3.9	602	0.0	0.0	51.2	98	649	29.1	3.8
あまぎ二条	4.18	5.31	89	5.3	859	0.0	0.0	52.4	100	686	36.6	2.7

- 注) 1. 10月31日播種。畦間30cm、播種量0.8kg/a。
 2. 施肥量(kg/a) 窒素: 0.8、リン酸: 1.8、カリ: 1.6。